一戸町立奥中山中学校

教育的価値	具体の項目	教育課程
【かかわる】	⑨仲間や地域の人々とのつながり 幼児や高齢の人々・障がいのある人々等が一緒に生活している地域社会おいて、互いに支え合う仲間の大切さや地域の方々のありがたさを実感する。 ⑪ボランティア 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。	総合的な学習の時間

【題材】スマイルレタスアートプロジェクト

【対象】一戸町立奥中山中学校全校生徒

【実践の概要】

【岩手日報　2014 年 7 月 16 日付けより】

東北の３つの新聞社、岩手日報社、河北新報社、福島民報社が手を取りあって、東北に笑顔を広げ、日本中にその笑顔を発信していく「スマイルとうほくプロジェクト」というプロジェクトがあります。そのプロジェクトの中に、「咲かせよう笑顔の花を」という活動があり、東北にいっぱいの花を咲かせて、みんなに笑顔を届けたい、という想いから、岩手、宮城、福島３県で、地域のみなさんやボランティアのみなさんとともに、種を植え、育て、花を咲かせる活動を行っています。その活動に地元奥中山の農家が参加しており、私たち奥中山中学校も一緒に活動しています。それが「スマイルレタスアートプロジェクト」です。今年度は、レタスの定植作業、収穫作業を行うとともに、被災地の仮設住宅にお住まいの方々へ収穫したレタスを届けました。

地域の特産であり、身近にあるレタスがたくさんの方々との交流へと導き、豊かな心を育むものとなっています。「地域とかかわる」「被災地の方々とかかわる」ことで、人の絆の大切さを学ぶとともに、社会に役立つことを進んで実践する態度を育成することをねらいとして実施しました。

【実践の詳細】

1　体験活動の紹介

①　レタスの定植作業

５月２６日、レタスの定植作業を行いました。この活動はＪＡ新いわて奥中山野菜生産部会レタス専門部の農家が中心となり、SAVE IWATE の呼び掛けで集まった内陸避難者の方々と奥中山中学校３年生が協働で行いました。

②　レタスの収穫作業

６月３０日、レタスの収穫作業を行いました。体育祭や文化祭で交流をしている盛岡みたけ支援学校奥中山校の生徒も一緒に作業を進めました。農家の方々の指導のもと収穫したレタスを箱詰めし、心地よい達成感を味わうことができました。収穫したレタスをおいしくいただき、あんなに小さかったレタスの苗がこんなに大きく、そして、おいしく育ち、農家の方々と奥中山の大地に感謝する気持ちになりました。

③ 被災地交流学習

７月１日、収穫したレタスを届けに宮古市田老地区に行きました。現地では全校で行き、防潮堤見学（全校）とレタス配布（３年）を行いました。見学では、宮古市議会議員の北村さんや宮古市観光協会学ぶ防災のスタッフの方々に案内していただきました。震災時の話を聞くとともに、現在の状況などたくさんの話を聞くことができました。

【田老の町を案内してくださった北村さん】

【防潮堤から見学】

レタス配布では樫内仮設住宅を訪問。玄関先で被災者の方に声をかけレタスを届けました。自分たちが暮らす地域のレタスが心と心をつなぐ架け橋になり、住民の方々と言葉を交わすことは素晴らしい体験となりました。

【仮設住宅全戸に配布】

【メッセージを添えてレタスを配布】

２　事後学習

① 七夕集会

被災地交流学習後に七夕集会と題して、全校で感想交流会を行いました。見学前と見学後の自分の気持ちの意識の変容を確かめるとともに、実際に見た感想を伝え合うことで、自分の考えを深化、発展、そして、共有化させる活動をしました。また、感想交流後には、短冊に復興への願いを書き、七夕飾りを作りました。

② 事後レポート作成

被災地交流学習後に、これまでの学習について全校で事後レポートを作成しました。見たこと、聞いたことの記憶をレポートにまとめました。また、文化祭で展示したり、レポートの感想を道徳等に活用したりし、被災地交流学習の成果を多様な学習へと意識的に関連付けながら活用しました。

被災地交流学習　事後レポート

3年　番　氏名

1　見る

<私の記憶に残った一枚>

津波の被害にあったホテルです。4階まで浸水し、鉄骨がむき出しになったまま4年が経過しました。4年たった今でもホテルの再開はまだ先のようです。一目見ただけでも津波の破壊力、恐しさが伝わります。6階にいた人たちはどんな思いでのまれていく街を見たのか。きっと想像を絶する光景だったのでしょう。営業を早く再開できるよう、願っています。

2　聞く

<私の心に残った言葉>

心に残った言葉【　北村　進　先生　】

保育所のお話で、「いつもと違う避難場所に逃げた為、全員の命が助かった。」ということを聞き、私がまず思ったことは津波がくるまでの短い時間で素早く賢明な判断をしたということに驚きました。訓練での避難場所では危ない、と思う事が出来たのは、きっと普段から訓練を行い、ここまでの高さの津波ならここへ逃げる、それ以上だったらそこへ行かない、と先生が訓練の時から考えていたからではないかと思います。やはり普段の行いから学んだ判断で命を助ける事が出来たのはすごいと思いました。

3　考える

<被災地交流学習で学んだこと>

田老へ行き、やはり前に比べて復興したとはいえ、まだまだ進んでいないな、と感じました。仮設住宅に住んでいる人にとってはまだ足りない物資も多いだろうし、やりたい事もやれていないだろうから、私に出来る事があれば進んで手伝いたいと思いました。また、今回の津波で起きた事を忘れないようにし、後世や世界へ伝えていく事も大切だと思いました。きっと津波の被害にあった人はずっと津波の恐しさを覚えていると思います。時が経ち、人間が記憶を忘れていく事はきっとあるんだろうけど、こんな悲しい事が二度と日本でも世界でもないように、対策をしっかりと練っていくことが大切だと思いました。早く、みんなが笑顔になれる日がくる事を、祈っています。

＜生徒の感想＞

○レタスの定植、収穫

レタス植えの作業では、終わったときとても疲れたけれど、被災された方々が、植え終わった後にとても嬉しそうに笑っていて、嬉しい気持ちになりました。そして、１ヶ月後、きれいなスマイルマークになった時の感動は今でも忘れられません。

○防潮堤見学

田老観光ホテルの無残な姿。建物の中にいた人たちはどんな思いでのまれていく街をみたのか。きっと想像を絶する光景だったのでしょう。あらためて震災のために行動したいと思う貴重な体験となりました。

○レタス配布

仮設住宅にお住まいのおばあちゃんたちが私たちを歓迎してくれてうれしかったです。「みんなが来てくれてとてもうれしいよ。」と話してくれて、笑顔を届けるプロジェクトなのに、自分が笑顔になり、心に響く体験となりました。

震災から３年が過ぎても仮設住宅生活が続いていて、早く本当の自分の家で過ごしたいと思うのは当然だ。津波を体験した人と実際に話さなければ分からないことがたくさんあったと思う。住民とのふれ合いを通し、被災地の実情がわかってよかった。

③　文化祭での発表

３年生が文化祭で、宮古市田老町の仮設住宅に暮らす人たちにレタスを届けた様子を演劇発表しました。シナリオを自分たちで作成し、地元のレタスが心と心をつなぐ架け橋になった喜びを表現しました。

今年の文化祭のテーマは「自由の翼」。演劇では、レタスアートプロジェクトを通して感じた自分たちの気持ちを素直に表現しました。

「私たちの翼は確実に進化している。未来へ向かってはばたこうとしている。しかし、その翼は、自分のためだけではなく、誰かのために使おうとしている。」

④　表彰の数々

【小さな親切実行章】

レタスアートプロジェクトに取り組んだことが評価され、「小さな親切実行章」運動県本部から小さな親切実行章を受けました。

【わたしの主張二戸地区大会】

９月に二戸地区で行われた「わたしの主張二戸地区大会」において本校生徒が最優秀賞に輝き、県大会に出場しました。レタスアートプロジェクトを通して感じたことを題材にし、育てたレタスを宮古市の仮設住宅で配布した際、被災者の笑顔の中に深い悲しみを感じ取り、「本当の復興はまだ遠い。これからも被災地の情報に関心を持ち続けなければ」と訴えました。

３　まとめ

- スマイルレタスアートプロジェクトの参加は今年で２回目でしたが、回数を重ねるごとに事前学習・事後学習の取り組みの充実が図られました。特にも事後学習において、事後レポートの作成、文化祭での演劇発表を行い、体験したことを振り返りながら進めることで、より効果的な学習を進めることができました。
- 地域の方々の協力のおかげで実現した実践であり、十分に連携を図り、ねらいをはっきりとさせ、計画的に取り組むことができました。
- このプロジェクトと関連させ、防災教育や道徳等を実施し、内容の濃い学習を進めることができました。また、岩手県教育委員会作成資料「いきる　かかわる　そなえる」を活用するなど、「いきる」「かかわる」「そなえる」の３つの教育的価値の学習を総合的に進めることができました。